

## アルハイテック、アルミ合金から水素製造。トヨタと実証実験開始



水素製造装置製造・販売のアルハイテック（本社・富山県高岡市、社長・水木伸明氏）は、工場用の水素製造装置の開発に着手したと発表した。

トヨタ自動車上郷・下山工場（いずれも愛知県）から発生するアルミ合金切粉を原料に、同社の技術協力を得て装置の実証実験を進める。来年4月の発売を予定し、自動車やアルミ関連メーカーなどアルミ廃材を排出する工場などへ展開していく計画だ。

アルハイテックではこれまで、アルミが含まれる家庭ごみなどから水素を発生させる定置型や小型可搬型の装置を製品化している。原料は純アルミが主だったが、新しい装置では工場から発生するマグネシウムや銅を含んだアルミ合金から、燃料電池や燃料電池車利用の品質規格をみたく純度の高い水素を製造できるようになる。

切粉は自動投入され、独自のアルカリ反応液を精製・循環して水素を連続的に製造する方式を採用。これにより、従来のバッチ方式ではできなかった連続運転が可能となり、製造効率が約1.5～2倍向上する。

10日、アルハイテック本社で水素製造のデモンストレーションが行われた。同社の水木社長は「新しい装置の実用化は産業界のみならず自治体・家庭用のBCP向けなどさまざまな場面で安価で安定的な水素利用につながる」と期待感を示した。